

令和 6 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と
情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化のための研究
分担研究報告書

研究分担課題名：HIV 感染妊娠の全国調査と母子感染予防に関する研究方法の評価と
今後に向けた提案

研究分担者：喜多 恒和 奈良県総合医療センター 産婦人科
研究協力者：外川 正生 医誠会国際総合病院 小児科
 宮木 康成 医療法人緑風会三宅おおふくクリニック
 Medical Data Labo
研究補助員：藤田 綾 奈良県総合医療センター 産婦人科

研究要旨

各研究分担班の研究計画に関して、修正すべき点について検討した。全国における HIV 感染妊娠の発生状況と HIV スクリーニング検査率の調査を主目的とした全国一次調査に随伴する他の感染症検査率の調査などは、好機的であり経年的な調査の継続が必要であると考えられた。産婦人科および小児科の二次調査における調査項目の修正に関しては、産婦人科小児科統合データベースのさらなる蓄積と有効な解析という観点から、調査項目の修正は不要であると判断した。二次調査の IT 化は順調に推進されており、蓄積データの情報共有化が実現されつつある。一般国民への正確な情報の教育啓発活動において、ショート動画の作成公開は大きな成果であると考えられるが、その提供情報量や視聴数に関する課題はまだまだ大きいと思われ、効果の検証が必要である。教育啓発方法の開発をさらに推進させる必要がある。また HIV 感染妊婦の経陰分娩の均てん化に関しては、医療従事者の態勢とわが国の医療体制との融合が必要である。そのためには現状調査に基づいた医療従事者に対する教育啓発も必要となる。ガイドラインやマニュアルの改訂とともに、HIV のみならず母子感染にかかわる他の感染症も含めた、医療従事者を含む国民全体の意識レベルの向上を目指した研究体制の構築が重要であると考えられた。

A. 研究目的

- ① HIV 母子感染にかかわる因子が明確となってきたことから、感染妊娠に関する臨床的疫学的情報の集積と解析において、産科的・小児科的調査項目の修正を行う。
- ② 長期にわたる HIV 母子感染に関する研究内容と成果を歴史的に評価し、今後の研究方法を提案する。

B. 研究方法

- ① 国内から報告された HIV 感染妊娠の産科および小児科の二次調査における調査項目を再検討する。HIV 母子感染に関する国内外の医学的研究により明確となった調査項目などで、今後の母子感染予防対策の改訂に必要度が低い

と判断される項目は削除し、必要度の高い項目を新規追加する。令和 7 年度の全国調査から新調査項目による調査を開始する。

- ② HIV を含めた性感染症に関する一般国民の知識レベルはいまだ低いままであるばかりか、医療従事者においても不十分であることが推測される。これまでの研究班が作成してきたリーフレットや小冊子、ガイドラインやマニュアル、SNS を利用したショート動画の公開などの効果を正確に検証し、より実効的な教育啓発方法を提案する。

（倫理面への配慮）

当班の研究は、HIV 感染に関わる産科医療と小児医療および社会医学の中で行われることから、基本的に「倫理面への配慮」は欠くべからざるも

のである。細心の注意をもって対処する。

C. 研究結果

研究方法①と②について研究分担班ごとに研究結果を記載する。

1. 吉野分担班

「HIV 感染妊婦とその出生児の発生動向および HIV 母子感染の臨床背景に関する全国調査」

全国一次調査における 2 つ目・3 つ目の調査項目は、毎年好機的で示唆に富む結果が得られている。将来予測に有効な調査項目の発案を期待する。さらに、過去の調査項目である母子感染にかかわる他の感染症の妊婦健診時における検査率などは、数年ごと経時的に調査することで感染症への関心度の動向を知ることができるので継続されたい。

2. 杉浦分担班

「HIV 感染妊娠に関する臨床情報の集積と解析および母子感染根絶へ向けた検討」

調査項目の再考による調査のスリム化、二次調査の IT 化、およびデータベースのクラウド化による情報共有と修正の共有化を進めていることは評価できる。産科二次調査から得られた情報は、統合データベースの更新に大変重要で、情報量が多いことに越したことはないのであるが、情報提供における煩雑性が回答率の低下を招く場合があるため、情報提供側の利便性も考慮する必要がある。しかし、これまでの報告書ではすべての調査項目に関して解析が行われ記載されていることから、調査項目の削除は回避すべきであり継続して情報を収集し、データベースとしての価値を維持することが重要であると判断した。ただし、今後は情報提供側への調査として、調査項目の多さや煩雑性から回答を拒否したいかどうかの意見をもとめる調査が必要であると考え。

3. 田中分担班

「HIV 感染女性と出生児の臨床情報の集積と解析およびコホート調査の全国展開と出生児の健康・発達支援の検討」

小児科二次調査も産科二次調査と同様に調査項目が大量ではあるが、毎年の報告書ではすべての項目に関して解析が記載されており、統合データベースの情報源として重要である。調査項目の

削除は不要と判断する。また産科二次調査と同様に、情報提供側の利便性に関する調査を提案する。

コホート調査の登録数は女性が 40 例、出生児が 52 例で、母子感染児は 1 例のみと決して多くはない。しかし長期にわたる調査になることや担当医や調査対象者にとっての利益性の不確実性からも、登録数の確保の困難性は理解できる。しかしこのコホート研究の主目的は、抗 HIV 薬を服用した HIV 感染妊婦からの出生児における副反応の長期的情報収集であることを勘案すると、更なる登録数の増加を目指して対策を講じてほしい。

4. 高野分担班

「多様な世代の国民向け HIV 感染妊娠の情報啓発アプローチの実践と基盤開発に向けた研究」

依頼元に対するリーフレットや小冊子の提供を継続するための費用を確保してほしい。また適時内容の改訂が必要である。SNS を利用したショート動画の公開も継続する必要がある。小冊子などの資料の配布後に有効性調査を条件付けすることは可能と思われ、またショート動画の感想を集積する方法も模索してほしい。SNS を利用した情報の拡散は有効ではあるものの情報量は極端に制限されており、教育的実効果は期待できない。やはり家庭教育、学校教育あるいは学校外教育における有効な教育啓発方法の開発が望まれる。

5. 出口分担班

「医療従事者への HIV 感染妊娠に関する情報の普及啓発と診療体制の整備と均てん化」

医療従事者の知識レベル調査、経膈分娩が可能な施設数の現状や必要数の推定、医療圏の設定、診療ガイドラインがわが国独自であることの明確化、マニュアルやガイドラインの改訂と経膈分娩マニュアルの刊行などを進めてほしい。分娩施設の限定化による感染妊婦の不利益を補える制度、例えば指定された分娩施設への通院や周産期における宿泊場所の確保などへの補助などを提案してほしい。

D. 考察

研究結果について、各研究分担班に周知し、次年度の研究計画の立案に資することができたと考える。しかし他の研究分担班と並列した立場で役割を推進することには即時性に欠けるという

難点があると考え。次年度は研究代表者に直属した研究分担班内において、アドバイザー的立場で研究班全体の推進状況を把握しながら、研究計画の推進状況を把握し、随時に研究推進の修正を提案していきたいと考える。

E. 結論

研究分担課題である「HIV 感染妊娠の全国調査と母子感染予防に関する研究方法の評価と今後に向けた提案」は、その目的を十分完遂できた。研究班全体のさらなる研究推進には、本研究課題は必要であり、その所属を再考して継続することを提案する。

G. 研究業績

1. 論文発表

著書

- 1) 山田里佳、兼重昌夫、北村亜紗、定月みゆき、白野倫徳、杉野祐子、田中瑞恵、谷口晴記、出口雅士、鳥谷部邦明、中河秀憲、中西 豊、中野真希、中濱智子、羽柴知恵子、渡邊英恵、喜多恒和：HIV 感染妊婦に関する診療ガイドライン 第3版。令和5年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染者の妊娠・出産予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」班編、2024

論文

- 1) 菊池琴佳、小山理恵、吉野直人、岩動ちず子、伊藤由子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、北島浩二、出口雅士、高野政志、喜多恒和：本邦における未受診妊婦とHIV検査の実施状況に関する全国調査。日本エイズ学会誌、2024；26(1)：38-44
- 2) 喜多恒和：HIV 母子感染。臨床婦人科産科、2024；78(1)：52-57
- 3) 山田里佳、喜多恒和：特集母子感染の最新知識 各論ウイルス感染症 HIV。周産期医学、2024；54(5)：575-580

2. 学会発表

シンポジウム・ワークショップ等

- 1) 出口雅士、喜多恒和、山田秀人：(ワークショップ) 母子感染症を語ろう～プロからの伝承 新興感染症と妊娠、分娩。第40回日本産婦人科感染症学会学術集会。東京、2024.5.6
- 2) 喜多恒和：(特別講演) 子宮頸がん予防 HPV ワクチンの接種で、ほぼ100%子宮頸がんが予防できます。奈良市医師会市民健康ひろば。奈良、2024.7
- 3) 吉野直人、伊藤由子、岩動ちず子、小山理恵、菊池琴佳、幅野 渉、高橋尚子、杉浦 敦、出口雅士、高野政志、喜多恒和：(シンポジウム) 日本における HIV 母子感染—過去・現在・未来から女性の PLHIV を考える—。第38回日本エイズ学会学術集会。東京、2024.11
- 4) 杉浦 敦、竹田善紀、湊 怜子、市田宏司、山中彰一郎、小林裕幸、高野政志、中西美紗緒、箕浦茂樹、田中瑞恵、出口雅士、喜多恒和、吉野直人：(シンポジウム) 近年の HIV 感染妊娠に関する問題点。第38回日本エイズ学会学術集会。東京、2024.11

発表

(海外)

- 1) Yamada R, Deguchi M, Yoshino N, Sugiura A, Tanaka M, Takano M, Kitajima K, Kita T：Characteristics of measures to prevent mother-to-child transmission of HIV and future challenges in Japan. 25th IUSTI World Congress, 2024, Sydney, 2024.9

(国内)

- 1) 杉浦 敦、竹田善紀、山中彰一郎、市田宏司、岸本倫太郎、中西美紗緒、箕浦茂樹、桃原祥人、高野政志、喜多恒和：HIV 母子感染におけるリスク因子に関する検討。第76回日本産科婦人科学会学術講演会。横浜、2024.4
- 2) 杉浦 敦、竹田善紀、山中彰一郎、市田宏司、湊 怜子、小林裕幸、高野政志、中西美紗緒、箕浦茂樹、桃原祥人、藤田 綾、喜多恒和、吉野直人：妊娠初期 HIV スクリーニング陰性例からの HIV 母子感染に関する検討。第40回日本産婦人科感染症学会学術集会。東京、

2024. 5

- 3) 伊藤由子、吉野直人、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、北島浩二、出口雅士、高野政志、蓮尾泰之、林 公一、外川正生、喜多恒和: HIV 母子感染全国調査 25 年間の変遷. 第 40 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 東京、2024. 5
- 4) 岩動ちず子、吉野直人、小山理恵、菊池琴佳、伊藤由子、高橋尚子、杉浦敦、田中瑞恵、山田里佳、北島浩二、出口雅士、高野政志、喜多恒和: COVID-19 パンデミックにおける HIV 母子感染に関する診療への影響. 第 40 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 東京、2024. 5
- 5) 杉浦 敦、竹田善紀、山中彰一郎、中西美紗緒、市田宏司、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、喜多恒和、吉野直人: HIV 感染妊娠における経膈分娩可能例に関する検討. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪、2024. 7
- 6) 岩動ちず子、吉野直人、小山理恵、菊池琴佳、杉浦 敦、出口雅士、高野政志、喜多恒和: 新型コロナウイルス感染症パンデミックと HIV 母子感染. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪、2024. 7
- 7) 吉野直人、岩動ちず子、小山理恵、菊池琴佳、杉浦 敦、出口雅士、高野政志、喜多恒和: HIV 母子感染全国調査 25 年間の調査項目の変遷と意義の検証: 現状に即した調査と母子感染対策の推進. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 大阪、2024. 7
- 8) 渡邊こころ、福井寛子、植田まさみ、佐川翔子、中谷真豪、渡辺しおか、石橋理子、吉元千陽、喜多恒和、佐道俊幸: 当院における未受診飛込み分娩の動向. 令和 6 年度奈良県産婦人科医会学術講演会. 奈良、2024. 8
- 9) 湊 怜子、杉浦 敦、竹田善紀、山中彰一郎、市田宏司、小林裕幸、高野政志、中西美紗緒、箕浦茂樹、桃原祥人、喜多恒和、吉野直人: 近年の HIV 感染妊娠における経膈分娩例に関する検討. 第 148 回関東連合産科婦人科学会学術集会. 松本、2024. 10
- 10) 田中瑞恵、外川正生、兼重昌夫、前田尚子、岡田陽子、中河秀憲、佐々木泰治、時川麻紀、北島浩二、喜多恒和、吉野直人: ヒト免疫不全ウイルス陽性女性と出生した児の長期予後に関する多施設コホート研究 (JWCICSII) からみた出生児の予後 第二報. 第 38 回日本エイズ学会学術集会. 東京、2024. 11
- 11) 高野政志、喜多恒介、川島史奈、鈴木ひとみ、羽柴知恵子、三上由美子、出口雅士、杉浦 敦、田中瑞恵、高橋尚子、喜多恒和、吉野直人: HIV 感染妊娠に関する情報の普及啓発方法の開発～SNS を用いた性感染症に関する情報発信の試み～. 第 38 回日本エイズ学会学術集会. 東京、2024. 11
- 12) 吉野直人、伊藤由子、岩動ちず子、小山理恵、菊池琴佳、幅野 渉、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、出口雅士、高野政志、喜多恒和: 妊娠初期 HIV スクリーニング陰性妊婦への妊娠中期から後期健診での HIV 再検査の実施状況. 第 38 回日本エイズ学会学術集会. 東京、2024. 11
- 13) 林 公一、出口雅士、五味淵秀人、蓮尾泰之、定月みゆき、杉野祐子、羽柴知恵子、中西美紗緒、中西 豊、中野真希、杉浦 敦、吉野直人、喜多恒和: HIV 感染妊婦において経膈分娩が可能となった後の医療スタッフの経膈分娩に対応する心理的不安の程度と現時点での経膈分娩の均霑化に関する検討. 第 38 回日本エイズ学会学術集会. 東京、2024. 11
- 14) 湊 怜子、杉浦 敦、竹田善紀、山中彰一郎、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、藤田 綾、高橋尚子、出口雅士、田中瑞恵、喜多恒和、吉野直人: 本邦における近年の HIV 感染妊娠の背景に関する検討. 第 38 回日本エイズ学会学術集会. 東京、2024. 11
- 15) 竹田善紀、杉浦 敦、湊 怜子、山中彰一郎、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、藤田 綾、田中瑞恵、出口雅士、喜多恒和、吉野直人: 妊娠中に発覚した HIV 感染妊婦に対するわが国の管理状況の変遷. 第 38 回日本エイズ学会学術集会. 東京、2024. 11
- 16) 浅見悠可、前川佑哉、小川瑞貴、金野 遥、

齊藤舞桜、藤田奈津実、伊東 響、奈良本千
朋、千田結理、根本紗季、鮎川美涼、吉野直
人、喜多恒和、羽柴知恵子、高野政志、蜂谷
敦子：若年層の性感染症ならびに HIV 母子感
染に対する意識調査と対象を加味した効果
的な情報発信方法の検討．第 38 回日本エイ
ズ学会学術集会．東京、2024. 11

- 17) 佐道俊幸、佐川翔子、植田まさみ、渡邊こ
ころ、福井寛子、渡辺しおか、石橋理子、吉元
千陽、喜多恒和：未受診自宅分娩となった梅
毒合併妊娠．日本性感染症学会第 37 回学術
大会．宜野湾、2024. 11
- 18) 渡邊こころ、福井寛子、植田まさみ、佐川翔
子、中谷真豪、渡辺しおか、石橋理子、吉元
千陽、喜多恒和、佐道俊幸：当院における未
受診飛込み分娩の動向．第 48 回奈良県総合
医療センター医学会．奈良、2024. 12

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし